極限下のエンターテイメント

シベリア抑留者の娯楽と文化活動

2024.
1.16(火)-4.14(日)

入館無料

開館時間	9時30分～17時30分(入館は17時まで)
休館日	毎週月曜日(月曜が祝日の場合は火曜日)、2月4日(日)
会場	平和祈念展示資料館　企画展示コーナー

※3月4日(月)に一部資料の展示替えを行います。

東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階
TEL:03-5323-8709　https://www.heiwakinen.go.jp
平和祈念展示資料館(総務省委託)
@heiwakinen

シベリア抑留者の
娯楽と文化活動

極限下のエンターテイメント

佐藤健雄「夕ぐれの梳る娘」

1945（昭和20）年の夏、長く続いた戦争が終わりを迎えました。ソ連軍と戦っていた日本の兵士たちにも、ようやく帰国の時が訪れます。「トウキョウ、ダモイ（東京に帰す）」と言うソ連兵を信じた彼らがたどり着いた先は、日本ではなく、シベリアでした。そこで待ち受けていたのは、過酷な強制労働、厳しい寒さ、慢性的な飢え。シベリアのラーゲリ（収容所）で生き抜くには、体力を保持するだけではなく、「絶対に故郷に生きて帰る」という強い意志と希望を失わないことが非常に大切でした。極限の状況下にあった彼らの心を慰め励ましたもの―それこそが、娯楽と文化活動だったのです。

抑留者たちの娯楽と文化活動は非常に多彩です。手先の器用な者は麻雀牌や将棋の駒を手作りし、俳句を嗜む者は仲間を集めて句会を開きます。芸達者な者たちが集えば、楽劇団が結成されました。彼らは疲れている中でも稽古を重ね、そこにささやかな楽しみを見出しながら、同胞たちを励ます音楽や演劇を届けました。

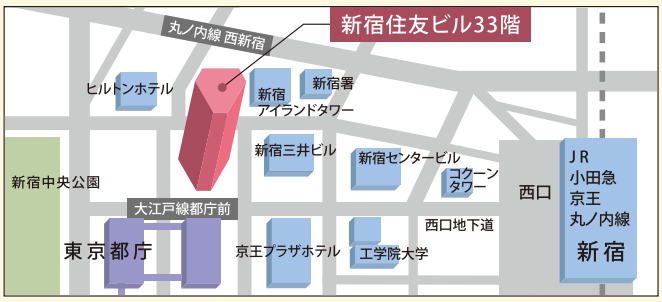
本企画展では、手製の娯楽品や、楽劇団で使用した楽器、抑留中に描かれた絵画などを展示し、抑留者たちの文化活動の一端をご紹介します。絶望のラーゲリで、抑留者たちに生きる希望を灯し続けた「エンターテイメント」の数々をご覧ください。

沿海州楽劇団で使用されたトランペット

新声楽劇団による演奏の様子

抑留者が持ち帰ったファゴット

［表面］上段左から：新声楽劇団による演奏の様子、沿海州楽劇団で使用されたトランペット、佐藤健雄「夕ぐれの梳る娘」
中段左から：勝山俊一「エラブカの聖堂」、古田卓造「遊ぶロシアの子供たち」、手製の将棋駒、抑留者が持ち帰ったファゴット
下段左から：沿海州楽劇団で使用されたギター、勝山俊一が抑留中に書いたメモ、新声楽劇団による演劇の様子



- 都営大江戸線「都庁前」駅 A6出口より徒歩約1分
- 東京メトロ丸ノ内線「西新宿」駅より徒歩約5分
- JR線、小田急線、京王線「新宿」駅西口より徒歩約10分

関連イベント（参加無料・予約不要）

抑留体験者による語り部お話し会		学芸員によるギャラリートーク
各日とも14:00～（約60分）		各日とも11:00～、13:00～（約30分）
1月21日（日）	成田富男さん	1月21日（日）
2月18日（日）	近田明良さん	2月18日（日）
3月17日（日）	西倉勝さん	3月17日（日）

※都合により、出演者が変更となる場合があります。

平和祈念展示資料館（総務省委託）